

なりて、一の上して、如父經宗ならばやと思ひけり、さて卿二位が夫にもよろこびて成にける程に、左大臣の事申けるは、大臣の下登むげにめづらしく、有べき事ならずとおぼしめきて、え申得ざりければ、この入内の事を、殿のむすめ參て後はかなふまじ、是まゐりて後は、殿のむすめ參らん事は、例も道理もはかるまじければ、一日この本意とげばやと、卿二位して殿下に申うけり、殿は院鳥羽に申あはせられけるを、院はこの主上の御事をばとくおろして、東宮にたてゝおはします、脩明門院子の太子德を位につけまゐらせたらん時、殿のむすめはまゐらせよかしと思召けり、人これをえらす、申あはせられける時、いさゝかこの趣などの有けるやらんとぞ人は推知しける、さてさりとて頼實の女を入内立后など思のごとくにしてけり、殿はまちさいはいおぼつかなく、當時はうら山しくもやおぼしけん略、元久三年三月七日、やうもならぬ死にせられにけり略、中さて故攝政の女はいよゝみなし子に成て、よろづ事たがひて、いかに人と思ひたりけれども、さやうに思召さざして有ける上に、春日大明神も、八幡大菩薩も、かく皇子誕生して、世も治り、又祖父の社稷のみち心に入たるさまは、一定佛神もあはれみてらせ給ひけん、人皆思ひたる方のすゑとほる事もあるべければにや、承元三年三月十日十八にて、東宮德の御息所にまゐられにけり、せうとにて、今の左大將家道おとなには遙かにまざりて何事もてゝの殿には過たりとのみ人思ひたれば、めでたくしてまゐらせ給にける也略、中承元四年十一月廿五日に受禪の事ありけり、さて東宮のみやす所は、やがて承元五年元建曆正月廿五日立后あり、

〔増鏡藤三衣〕はかなくあけくれて、中寛喜元年になりぬ、此程は光明峰寺殿道家又關白にておはす、この御むすめ子女御堀河にまゐり給ふ、世中めでたくはなやかなり、これよりさきに三條のおほきおと公房の姫君子有まゐり給ひて、ささきだちあり、いみじう時めき給ひしをおし